

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成19年度農作物病虫害発生予察情報について

平成19年度農作物病虫害発生予報第3号を発表したので送付します。

平成19年度農作物病虫害発生予報第3号

平成19年5月31日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期：平年並(前年並)

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 5月後半の巡回調査では、発生は認められなかった(平年同時期は発生圃場率が5.2%、発病度が0.5)。

(2) 補植用置き苗での発生は認められなかった(過去9年間の発病率：平成10年25.0%、平成11年14.0%、平成12年4.2%、平成13～15年は未確認、平成16年は4.8%、平成17～18年は未確認)。

(3) 5月25日発表の1ヶ月予報では、天候は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

(2) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生時期：平年より早い

2) 予報の根拠

(1) 美波町由岐地区における本田調査において、初飛来を5月17日、第2回目の飛来を5月26日に確認した。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

普通期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期：平年並(前年並)

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生は認められなかった(平年同時期は発生圃場率が1.9%、発病度が0.1)。
- (2) 補植用置き苗では発生は認められなかった(過去9年間の発病率：平成10年12.3%、平成11年2.9%、平成12年2.4%、平成13～18年は未確認)。
- (3) 5月25日発表の1ヶ月予報では、天候は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。
- (2) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は10.0%、25株当たり成虫数は0.1頭で、ほぼ平年(23.9%、0.7頭)並の発生であった。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 根腐しやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け根を健全に保つ。

II. 果樹

カンキツ

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期：平年並(前年より早い)

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場での第1世代幼虫の発生初確認は5月13日であった(平年：5月14日、前年：5月20日)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除適期は、有機リン剤の場合6月17日～6月22日頃である。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度は「中」、発生量は平年よりやや多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場(5月21日調査、無防除区)における発生量は、寄生葉率が6.0%、1葉当たり生息虫数が0.06頭で、ほぼ平年(1.9%、0.02頭)並の発生であった。
- (2) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は66.7%、寄生葉率は16.1%で、平年(47.6%、8.2%)よりやや多めの発生であった。
- (3) 5月25日発表の1ヶ月予報では、天候は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、各農薬の適用表が定める使用液量の範囲内において、十分な量の薬液を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期：平年より早い(前年より早い)

発生程度は「中」、発生量は平年よりやや多い(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯への誘殺虫数は、ほぼ平年並で推移している。
- (2) フェロモントラップへの誘殺虫数は、5月に入り吉野川市鴨島町において平年より高い水準で推移している。
- (3) 5月25日発表の1ヶ月予報では、天候は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類が多発する年は、幼果期にあるカンキツ類はもとより、間もなく収穫期を迎えるウメ等への被害も大きいので、防除を励行する。
- (2) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (3) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (4) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

【予察灯】

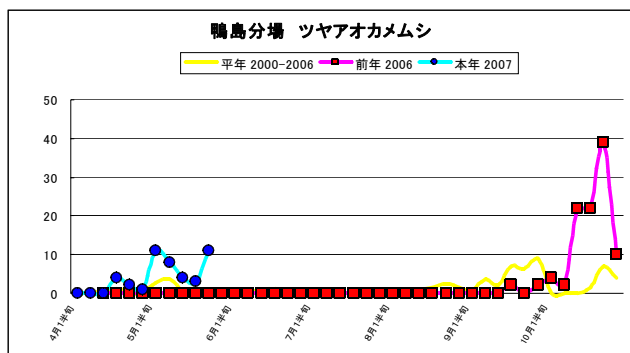
[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2007年	2006年	2005年	2004年	平年	2007年	2006年	2005年	2004年	平年	2007年	2006年	2005年	2004年	平年
5.1	4	28	1	256	74	51	0	1	292	44					
5.2	9	172	1	731	192	26	72	0	456	85					
5.3	16	19	1	1,078	115	32	25	0	643	83					
5.4	15	895	4	436	145	27	143	1	167	45					
5.5	57	378	6	292	147	130	27	0	197	50					
5.6		475	3	712	187		32	0	78	34					
6.1		475	1	102	109		17	0	12	29					

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2007年	2006年	2005年	2004年	平年	2007年	2006年	2005年	2004年	平年	2007年	2006年	2005年	2004年	平年
5.1	9	22	0	44	26	7	0	2	153	22					
5.2	12	144	0	205	87	32	75	1	199	45					
5.3	21	2	1	685	58	18	0	2	273	37					
5.4	7	262	0	315	51	7	59	2	69	18					
5.5	77	201	0	276	93	23	17	1	110	22					
5.6		208	1	242	80		1	0	69	24					
6.1		73	0	40	29		4	0	15	51					

【フェロモントラップ】



発生程度は「多」、発生量は平年より多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%、葉の被害度は26.4で、平年(49.1%、2.3)と比べて多めの発生であった。
- (2) 5月25日発表の1ヶ月予報では、天候は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。
- (3) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発し、残暑が続くと秋口にも発生が多い。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

テレホンサービス 0883 (26) 1199

ホームページ <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病害虫の発生予報、発生状況、防除法等をお知らせしています。